



# 「食・農・命」をテーマに 共に学び、成長する 新たな農村ビジネス確立へ



本田節さん(64)

1954年、球磨郡相良村生まれ。県立人吉高校卒業後、地元の農協勤務。1989年、主婦仲間20人で地域づくり団体「ひまわりグループ」を結成。1995年、人吉市議会議員に。1998年、「郷土の家庭料理ひまわり亭」をオープン。2017年、同郡あさぎり町に「食・農・人総合研究所リュウキンカの郷」を開所。代表を務める。



「リュウキンカの郷」のシンボルマークとなっているリュウキンカとは、あさぎり町の町花で、花言葉は「必ず来る幸福」



球磨川の清らかな水と豊かな大地に育まれた球磨郡あさぎり町に2017年、食を主軸とした「食・農・人総合研究所リュウキンカの郷」がオープンしました。農村地域で働く女性の潜在能力と地域資源を生かした新たな農村ビジネスを展開すると共に、地域づくりの担い手となる人材育成に力を注ぐ、同所代表の本田節さん取材しました。

## 闘病生活を体験し 食と農、命の大切さを痛感

球磨郡あさぎり町の隣町・相良村の農家に生まれた本田節さん。結婚後、当時9歳、7歳、4歳だった3人の子どもを連れ各地を回りながら、地域づくりの勉強を重ねていました。37歳の時、進行性のがんを患い、1年間の闘病生活を体験。「この辛い治療を経験したことで、食と農、さらには命について考えるようになった」といいます。「二度とない人生なら悔いのない生き方をしよう。自分の生き様を子どもたちに見せていくことが、私の生きた証になるはず」と気持ちを奮い立たせ、治療を乗り越えたそうです。

この闘病生活をきっかけに、勉強を重ねていた地域づくりを実現したいという思いが膨らみ1989年、「ひまわりグループ」を発足。地域の50代から70代の主婦20人で、一人暮らしの高齢者宅へ弁当を届けるボランティアをスタート。「仲間が皆、お料理が好きで、おしゃべりも好き。そして人の世話が好き。この能力を生かして、もっと地域に貢献でき、しかも自分たちの生きがいにならな

つながることができないか」と考え始めました。

そこで出会ったのが、本田さんが人生の師と仰ぐ湯前町下村婦人会代表の山北幸さんでした。山北さんは、戦後の厳しい時代に、女性の経済的自立を掲げ、流通に乗らない農産物を加工し販売する6次産業化の先駆者。「山北さんとの出会いで、私の人生が大きく動き出したのです」

## 「これからの市政には 女性の声が必要」

本田さんの活動を後押ししたもう一つの鍵となったのが、闘病時、子どもへの世話から家事まで、家のことを全てを引き受けてくれた夫の存在でした。「私にもしものことがあつたら3人の娘たちを一人で育てていかなければならぬ」という危機感があつたのでしようね。退院すると、私がいなくても家のことが全て回るようになっていきました」と本田さん。夫の「家庭生活の自立」が、全国を飛び回る本田さんの活動を、今も応援してくれているといいます。また、体力を取り戻した後、2期に

わたり人吉市議会議員を務めた本田さん。「これからの市政には、女性の声が必要になる」と出馬を決心させたのも、夫の一声だったそうです。

## 生きがいと実益兼ねる 農家レストランオープン

山北さんとの出会い、そして夫の協力で地域づくりに拍車がかかった本田さん。「リスクのない自立はない」と腹をくくり、補助金に頼らない食を通して農村ビジネスに参入。日々の暮らしを通して多くの知恵や技を持つ経験豊かな高齢者を雇用し1998年、農村レストラン「ひまわり亭」をオープンしました。地元で採れた新鮮な野菜を使った郷土料理を提供するとともに、食を通じたイベントを開催。また、地元の食材を使った郷土料理を継承するため郷土料理伝承塾を主宰し、若い世代の人たちにも「地域ならではの味を伝えていきます」。

## 地域資源に新たな価値 「熊本モデル」で地域浮揚

そして2017年、地域の農家民泊ホテルなどの協働で、食・農・命をテーマとした新たな拠点づくりをスタート。地域住民はもちろん、県内外の人々が集い、学べる場となる、120年の古民家を活用した宿泊型の研修所「食・農・人総合研究所リュウキンカの郷」の運営に乗り出しました。

団体向けの食をテーマとした研修会の他、農家民泊のレシピ開発、農産物やそれを用いた加工品など、地域にある資源に付加価値を付け、地域全体の収益につなげる、新たな取り組みを始めています。

今年8月には、「キッズ野菜ソムリエ」の研修会を開くなど、食を通じた多世代交流も開始。「これからは、女性だけが集い学ぶ場所ではなく、夫婦での参加、おじいちゃん、おばあちゃんとお孫さんが一緒に参加できる開かれた場が必要。地域全体の学びの場、そして人材育成の場としてもさらに組織力を高めていきます」と本田さん。

「農村ビジネスは、古いものに新たな価値を見出し、まさに「復古創新」事業。これからまだまだ成長していく産業」と強調します。

今後も「空き家をリノベーションし拠点を増やし、人的ネットワークを広げていきたい」と夢が広がる本田さん。「私たちの普段の生活が、都会や海外から来るお客さまにとっては非日常を体験できるとっておきの時間に。農村での豊かな暮らしそのものが、新たなビジネスチャンスとなるのです。ここにあるものを違う方向から見定め、その魅力を発信していくことで地域浮揚にもつながるはず」と力を込めます。農村コミュニティの「熊本モデル」確立へ向け、本田さんたちの歩みは加速します。



▶「リュウキンカの郷」で研修をする農家民泊の方々

本田さんが手掛けた郷土料理をテーマとしたさまざまなレシピ本



2019年8月に開催されたキッズ野菜ソムリエ養成講座



男性も巻き込みながら地域全体を活性化